

平成26年度 大分県立看護科学大学



公開講座

災害に備える 看護職の役割

9/6 土

- 場所 / ホルトホール大分 201・202会議室
- 時間 / 13時～17時
- 対象 / 看護職と介護職、一般県民
- 募集人数 / 150名
- 資料代 / 500円 ※但し、学生は無料

2011年3月11日の東日本大震災、また、2012年7月11～14日の九州北部豪雨により、改めて防災・減災の必要性が意識されるようになりました。大分県は、南海トラフ地震対策の特別地域であり、特に大分県東部は、愛媛県伊方原発の50Km圏内に位置しており、地震発生を想定した災害対策が課題です。今年度の公開講座では、県民の防災・減災の意識を高め、看護職の役割を共通理解する機会にしたいと思います。

〈プログラム〉

13:00 開会あいさつ

13:15 講演1「東日本大震災からの学び」
村嶋幸代(理事長・学長)

14:00 講演2「東日本大震災での看護活動の実際」
増野陽子(大分赤十字病院・本学4期生)

15:00 講演3「災害時に期待される看護職の役割」
石田佳代子(看護アセスメント学)

16:00 講演4「原子力災害時に備える -3職能の役割-」
甲斐倫明(環境保健学)

16:45 閉会あいさつ



九州北部豪雨

お申し込み・お問い合わせ詳細は裏面をご覧ください。

災害に備える看護職の役割

平成26年9月6日(土)

講演 1

東日本大震災からの学び

村嶋幸代 (理事長・学長)

巨大津波を伴った東日本大震災の一ヶ月後、被害が甚大だった岩手県大槌町に全国の保健師が集まり、全戸家庭訪問を行いました。その記録と、その後の支援で見出された課題を共有し、災害への備えについて考えたいと思います。

(参考)「大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興」
村嶋幸代(一般社団法人全国保健師教育機関協議会・会長)他、
編(明石書店、2012)

講演 2

東日本大震災での看護活動の実際

増野陽子 (大分赤十字病院・本学4期生)

「東日本大震災の被災者の状況や思い、その全て」

東日本大震災から3年6か月…あの時被災地ではどのような活動が行われていたのか。日本赤十字社だからこそ、発災直後から連携し救護活動を行いました。被災地で実際にこの目で感じたこと、被災者のその時の状況や思い、その全てを伝えたいと思います。

講演 3

災害時に期待される看護職の役割

石田佳代子 (看護アセスメント学)

災害時には、看護職においても、普段とは異なる活動が期待されています。例えば、トリアージは災害時に必要な技術の一つです。災害に備えて取り組んでいる活動にスポットを当てて、いつもとは違う一面をご紹介しますと思います。

講演 4

原子力災害時に備える -3 職能の役割-

甲斐倫明 (環境保健学)

万が一の事故に備えた取組みとして日常的に準備しておくこと、さらには、事故時にクライシスマネジメントとしてとるべき行動をあらかじめ検討しておくことが必要である。福島事故の教訓から学ぶべき看護職3職能の役割について参加者と共に考える。



場所／ホルトホール大分 201・202 会議室
大分市金池南 1 丁目 5 番 1 号
<http://www.horutohall-oita.jp/>



平成26年3月「大学生消防応援隊」を結成しました!!

お申し込み・お問い合わせ

TEL097-586-4300

✉ kokai@oita-nhs.ac.jp

- 前日までに電話またはEメールでお申し込みください。
- 当日のお申し込みも可能ですが、定員を超えている場合は参加できません。
- 公開講座終了後の学内見学ツアーを希望される方はご連絡ください。



公立大学法人

大分県立看護科学大学

〒870-1201 大分県大分市廻栖野 2944-9

TEL 097-586-4300 FAX 097-586-4370

URL <http://www.oita-nhs.ac.jp/>

